

1月29日(金曜日)「波乱の生涯の中でも(3)」

【新改訳 2017】

創世記 39・7-23

「ご主人は……あなた以外には、何も私に差し止めていません、あなたがご主人の奥様だからです。どうして、そのような大きな悪事をして、私は神に罪を犯すことができますでしょうか。」(9節)

「好事魔多し」という格言があります。良いことにはとにかく邪魔が入るものだという意味ですが、ヨセフの生涯にも言えるようです。

パロの廷臣ポティファルの家で信頼され、主の祝福が豊かな時に、彼の妻がヨセフを誘惑して罪を犯させようとしたのでした。その時のヨセフの対応が、冒頭のことばです。

彼女のしつこい誘いに、上着を残して逃げて訴えられ、投獄されてしまいます。しかし、ヨセフは神を恐れ、主人への忠誠を守り抜きました。主はヨセフを捨てられず、投獄中でも共におられ、恵みを施してくださいました。彼は信頼され、投獄されていた廷臣たちの夢を解き明かして、さらにパロに近づく道が備

えられました。主にゆだねつつ清廉に生きる者を、主は決して
お見捨てにはなりませんでした。

～祈り～

主よ。あなたは、あなたを恐れ、信頼し、上司にも忠誠を尽くす
キリスト者を守り、用いてくださいます。その中での誘惑にも勝
つ信仰を与えてください。

【学びのために】

人は出世し、権力をもつと、妥協したり、高慢になったりしやす
いものです。また、容易に誘惑に負けてしまいます。名誉、お金、
異性の問題がからみついていくようです。ヨセフには、神に仕
え、人にも仕える公僕の信仰のあり方を教えられます。